１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0371200239		
法人名	社会福祉法人　江刺寿生会		
事業所名	グループホームかつひろの家		
所在地	岩手県奥州市江刺区岩谷堂字下惣田290－２		
自己評価作成日	平成24年12月21日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0371200239-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①昔ながらの行事を行い、季節ごとの楽しみを感じながら生活を送って頂けよう支援している。
（餅つき・初詣・水木団子ならし・節分行事・お花見・梅干し作り・葉焼き作り・七夕行事・干し柿作り・他）
②朝にゴミ捨てを兼ねて、外の散歩を実施。外の空気や季節の移り変わりを感じて頂きながら歩行機能の維持を図っている。
③ご利用者と共に地元スーパーや産直への買い物・お祭り見物・お墓参りなどを随時行い、地域とのつながりを図っている。今年度は、習字作品を芸術祭に出展し、地域との交流活動を強化した。活動写真なども展示し、結果的にグループホームを知っていただく機会となった。
④ご利用者個々のニーズを汲み取れるよう、日々の会話や表情に気を配り、その人らしく生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームかつひろの家」は、奥州市江刺区の福祉関係の機関、施設が団地化している「ヒロノパーク」の一角にあり、社会福祉法人江刺寿生会が運営している。
法人の理念、GH独自の理念を職員一同その趣旨を理解し、利用者の思いを叶えるよう努めている。隣接する同法人の特養やデイサービスセンターと様々な形で連携する中で、特に非常時の支援体制が整備されている。また、隣接するベビーホームとの交流も盛んに行なわれているのも大きな特徴である。
季節ごとの地域の行事、例えば江刺甚句まつり、芸術祭への出品見学、日常的な外出支援など季節感を味わいながら事業内に閉じこもらない、変化のある生活が出来るように支援している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	かつひろの家の理念 ①ゆっくりと穏かに②のんびりと楽しく③一緒に笑顔で暮らす家 朝食前に皆で唱和し、共有することで、利用者の生活に寄り添ったケアにつなげている。	事業所の理念である「ゆっくりと穏やかに」「のんびりと楽しく」「一緒に笑顔で暮らす家」を職員と利用者が、一緒になって作り上げるように努めている。食事前に咀嚼運動を兼ねて一緒に唱和もしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と、近所のスーパーや産直に買い物へ出掛けたり、さくらの郷の餅つきに参加するなど民生委員や地域の方々との交流の場を設けている。市の芸術祭に出展し、地域の方々より多くの反響があった。	季節ごとの地域行事の“どんと祭”、“江刺甚句まつり”、敬老会、芸術祭などのほか、事業所独自の行事の花見、温泉への日帰り湯治等を実施し、変化のある毎日が送れるように工夫されている。芸術祭への書道作品の出品なども特徴的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かつひろの家の見学や地元学校の職場体験、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。民生委員の紹介により、5月～習字のボランティアの受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月ごとに開催。日々の状況報告と質疑応答・意見交換を行いサービスの向上に努めた。運営推進委員のご紹介で、地域の方の習字講師の依頼がスムーズに運び、習字教室が開催されている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。現況の説明の後、意見交換がなされ、様々な提案がある。メンバーの市の消防署員等からは適切な助言を頂いている。他の事業所、施設の見学等を行い、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者とともに各種書類申請など市役所に申請に出向いている。市の担当者は、運営推進会議の委員にもなっている。	生活保護の更新、介護度の変更などの場合、市本庁、総合支所の担当窓口、地域包括支援センターへ必要に応じて、本人同行で訪問し、相談・意見交換などを行い、連携を深めるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、身体拘束の禁止について、全スタッフ共通認識している。 日中は居室・玄関に施錠せずセンサーの設置により安全を確保している。夜間のみ、防犯のため、施錠している。	身体拘束に関する外部研修の結果の復命、内部研修の日常的な実施により、身体拘束を行わないよう職員一致し、介護にあたっている。事業所建物の4隅にセンサーを設置し、居室から直接外部に出た場合の対応が出来るように工夫がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施。高齢者虐待防止法の理解を図り、虐待防止の徹底に努めている。毎日の生活の中で、利用者に対し、配慮の足りない言葉遣いに関しては、スタッフ同士指摘するよう心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、社会福祉協議会や市役所担当と連携。利用者1名：成年後見人あり。適宜、スタッフは、成年後見人制度について勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはご利用者及び家族に対し、契約書・契約書別紙・重要事項説明書を読み上げ、署名・捺印を頂いている。また、やむを得ず契約解除となる場合にも十分な説明を行い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度ご利用者及び家族にアンケート調査を実施し意見・要望を頂く機会を設けている。要望、希望などは、ご家族が面会の際に、できるだけ声がけし、随時、工夫するよう心がけている。	年に1度、家族へのアンケート、来訪時の話し合い等から意見・要望を聞くようにし、運営の改善等に向け、努力をしている。例として、職員の名札の改善、適切な栄養バランスを考え、法人の栄養士に献立をチェックしてもらう等がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ISO9001　認証取得。 MR(経営者との懇談会)を実施している。	「ISO9001」取得以来業務の改善が、いっそう図られるようになった。MR（マネージメント　レビュー）を実施している。管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、その手順や記録を書類作成した上、整理整頓している。提案の実例としては、職員のローテーション変更などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課に取り組んでいる。運営推進会議や職員会議に参加し状況の把握と対応策に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の参加や改善研究の実施を促進し職員のスキルアップに努めている。改善研究については法人内で発表会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や定例会に積極的に参加。勉強と情報交換の場が持てる様対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話があった場合はご本人及び家族に見学を勧めている。見学に来られた際にはお茶を飲みながら現在困っている事などを伺い、状況の把握と関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめな連絡調整を行いご利用者及び家族の不安解消と状況の確認に努めている。現在の待機状況など、かつひろの家に訪問する方や介護保険の更新の際に、ご家族から、現在の状態を手紙にしていただくこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や居宅ケアマネと連絡を取り、情報の収集と分析を行い、ニーズの把握と対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である事を常に念頭に置きながら共に過ごして行く事を心掛けている。食事作りや季節行事の際にはどうすれば良いのかを学びながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開所記念行事や敬老会などの際には参加して頂ける様案内状を送付。利用料請求書送付の際に現在のご様子を書いた手紙を同封している。また、面会時には口頭での状況報告の他、ケース記録を見て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院への通院、馴染みの人や場所との関係を継続している。本人の希望があれば、自宅訪問やお墓参りなどを実施している。外泊・外出支援も積極的に行なっている。	本人・家族の希望により、馴染みの人や場所への訪問、かかりつけ医への受診など必要により事業所側で送迎サービスを行なっている。その際、早番の人が診察受付をしておくなどの工夫をしている。また希望があれば、職員が家族と一緒にいくこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が一緒に生活することで、優しい声がけをしたり、手を貸してあげたり、一緒に歩いていたりする。時々、強い言動もみられるが、それも大切な関わり合いと考え、「家族」という雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所が決定した後も利用料支払いや荷物引き渡しの際などご家族の訴えや話を聴く姿勢に努めた。また、同敷地の特養に入所したご利用者も行事参加の際に声掛けを行い関係の継続に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用。本人の想い、要望の把握に努めている。意思疎通が困難な方でも表情や行動から汲み取る努力をし、ご家族からも情報を得られるよう心掛けている。習字は、地域の芸術祭に出展した。	センター方式シートを活用し、利用者の希望や意向把握に努めている。自分の思いを表現できない方については、職員は動作やしぐさから察知して叶えるように心がけている。家族からの情報も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方などセンター方式を活用し、把握に努めている。本人の得意なことを情報集め、編み物をスタッフと行っている方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式シートを活用し、24時間アセスメントを行い、生活リズムの把握に努めている。本人の分かること、出来る事を見極め潜在能力の引出しに努めている。シャワー浴だった方が入浴するようになった。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを実施。現在の状況や課題を把握しながらケアプランを作成している。介護保険更新時には、本人・ご家族とともにサービス担当者会議を行っている。	職員は利用者の担当制をとっており、月1回または、必要により話し合いをもち、現在の状況や課題をモニタリングして、結果をサービス計画に活かすようにしている。介護認定更新の際は、サービス担当者会議を実施し、本人・家族の要望を聞き取ってケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過や気付きについて個別のケース記録に記載。状況に著しい変化が見られサービス内容に変更が必要と感じた際にはサービス担当者会議を実施し、ケアプランの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の重度化により受け入れが困難になると思われる際も特別養護老人ホームの申込みのアドバイスを行った。また、同法人のサービス付高齢者住宅の見学をしたが、ご家族からは、グループホーム継続の希望。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接施設（さくらの郷、聖愛園ベビーホーム）での行事や演芸発表会など地域行事を把握。可能な限り参加に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員や家族の同伴で通院を実施。現在の状態を主治医に報告している。受診結果は、ご家族に報告を行っている。毎回、通院報告書を作成し、記録として保存している。ご家族が通院する際は、連絡ノートを活用している。	家族が通院の介助が出来ない時は、事業所で送迎の支援をしている。その時は現在の状況をかかりつけ医に報告し参考にしてもらっている。家族が同道できないときは、家族あて受診結果を報告している。また、通院報告者を作成し、記録として保存している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	転倒や体調の不調が見られる際は、併設施設の看護職員に連絡・相談を行い適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、医師や看護師に状態を伝え、情報交換を実施した。また、退院カンファレンスには、主治医・看護師・家族・成年後見人・ケアマネ同席し、早期退院ができるよう支援した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	非常にデリケートな問題の為、慎重に検討して行きたいと考えている。スタッフもターミナルケアについて勉強する必要性あり。延命処置について、本人の意思確認が困難のため、ご家族の意向を伺い、ケアプランに組み入れた。	医療行為を伴うような終末期の介護については、専門の看護師がいないことなどから現在慎重に検討中である。必要により同法人の特養等との連携を図っていくことが大切であると考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて急変時の対応についてマニュアルを作成。職員会議の際に読み合わせを行い対応について確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、隣接の特養さくらの郷の協力を得て、避難訓練を年２回実施。（夜間想定） ３、１１東日本大震災以降、停電に備えて発電機を購入している。	年2回、隣接する同法人の特養ホームと連携・協力のもとに、消防署の指導を得ながら実施している。夜間を想定しての訓練も実施している。非常時に備えて、飲料水等の備蓄、発電装置も整備した。	隣接する特養ホームとの避難訓練時には、近隣の方にも声がけし、見学・参加されているようであるが、グループホーム独自の避難訓練時も参加の呼びかけを行い、薄暮時での実施も期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を常に念頭に置きながら声掛けを実施。職員間でもお互いに気になるような際には確認を取り合っている。個人情報の保護については法人のマニュアルに沿って実施。	個人の人格・尊厳を大切にする介護を心がけ、声掛けには特に配慮し、自尊心を傷つけないようにしている。プライバシーの保護については、法人のマニュアルに従っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択式のおやつや買い物の際の食材購入の選択、味噌汁の具の相談など選択や決定の場を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしながら役割や生きがいを見出せるよう支援している。生活リズムを整えるため、1日の概ねのプログラムはあっても、一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと生活支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に出掛けて散髪を実施。また、居室前には個別に洗面台を設置し、鏡でのチェックがし易い環境つくりに努めている。敬老会など特別行事の際には化粧をし、お洒落を楽しんで頂ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や畑で採れた野菜を使用し、季節感のある献立を作成。調理の際には下拵えや盛り付け・味の確認などご利用者に手伝って頂きながら食事作りを行っている。	事業所の菜園で収穫された食材を使うなど、季節の移ろいを感じることが出来るように工夫されている。また、メニューには行事食、地元の伝統的料理なども取り入れるなど、変化に富んだ食事が出来るように配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の身体状況・健康に合わせて食事を提供。お粥食やミキサー、塩分制限がある方には代替を提供している。水分補給は、個々が摂取しやすいよう配慮している。(コーヒーが苦手な方にはお茶など)本人の持参したコップで飲んでいる方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいや食後の歯磨きを実施。入所時は、口臭がひどい方もいたが、一日3回毎食後、口腔ケアすることで、口臭がなくなった。本人の状態に応じて、子供用の歯磨き粉使用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握。リハビリパンツ、紙オムツ、パット、布パンツなど日中、夜間で個々に対応している。外に行きたい→便意・尿意の表れの可能性もあるため、本人のサインを見逃さないよう観察。	排泄チェック表は、バイタルチェック表と併せて作成され、健康管理や排泄パターンを把握し、加えて動作や仕草からサインを察知し、トイレ誘導を行い、失敗等による羞恥心の排除に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立をたてる際には野菜を多く取り入れ、乳製品（ヨーグルト・牛乳）を提供。他にも水分の補給や運動の実施し便秘の予防に努めている。自然排便が困難な際は医師と相談し、下剤の服用を実施しながら排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の健康状態や気分によって変更。菖蒲湯やゆず湯など季節感を楽しんで頂けるよう工夫を行っている。本人に安心して入浴していただくため、、スタッフ二人介助している方もいる。	バイタルチェックのもと、2日に1回は、入浴出来るようにしている。必要により、2人介助も行なっている。季節感を楽しめるように菖蒲湯や、ゆず湯なども取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠って頂けるよう、ベットを整えたり、冬季は、個別によって湯たんぽを提供。眠れない際にはココア等を飲んで頂き安眠できる環境つくりを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書をファイルに保管。分包した薬袋にも氏名等を記入し都度確認を行っている。薬の症状や効果については常時ミーティングやケアカンファレンスで確認し必要があれば医師と相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意なことが発揮できるよう役割を見つけ、感謝の言葉をかけている。（食事作り、茶碗拭き、掃き掃除、俳句、チラシによる箱作り、裁縫、編み物等）毎日、日記を書いている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い出しや散歩など日常の外出の他、ご希望があればお墓参りや自宅訪問、ご家族との外出など個別での外出の機会も設けている。暖かい季節には、毎朝、ゴミステーションまで、スタッフと一緒に散歩している。	天候の良い時は日常的に事業所周辺の散歩、ゴミステーションへのごみ運び、食材の買出し時には、希望により同行、季節により花見、日帰り温泉湯治など事業所内に閉じこもらない生活となるように配慮されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院時や買い物の際、可能な限りご自分で支払いが行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	広報を発送する際は、本人に遠方のご家族に手紙を書いて頂いている。ご家族から、その字や内容から、本人の状態を汲み取ることができると話あり。年賀状・電話など家族とのやりとりがスムーズにできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは直射日光が当たら無いように簾をかける、トイレには嫌な匂いがこもらないよう換気と共に消臭剤やスプレーを設置するなど環境の整備に努めている。また、季節に沿った館内装飾を心がけ季節の変化を楽しんで頂いている。（クリスマスツリー・水木団子・ひな飾り等）	暖房は、床暖で快適な空調となっている。リビングは、天窓から直射日光が入らないように天井に、よしずや遮光シートを張り、柔らかな雰囲気が醸し出されている。壁には利用者が書いた書道作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには和室・リビング・食堂など思い思いに過ごせる場所を用意。それ以外にも数か所に椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族のご要望に応じて、自宅より使い慣れた家具やテレビ等を居室に設置。ご家族やペットの写真など馴染みのものを置いている。ご主人のお位牌を置き、拝んでいる方もいる。	居室の備え付けは、ベッド、タンス、洗面台等で希望により薄い畳も敷けるようになっている。居室への私物の持込は自由で、利用者によって位牌、家具、テレビ、写真など様々持ってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室など分かり易いよう大きく表示。施設内は概ねバリアフリーで要所要所に手摺を設置している。居室毎に洗面台を設置し洗顔や歯磨きがスムーズに行えるよう対応している。		